

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071500922		
法人名	医療法人 完光会 今野病院		
事業所名	グループホーム 青葉		
所在地 (電話番号)	〒836-0897 大牟田市青葉町12-11 (電話) 0944-55-0777		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年10月22日

【情報提供票より】(H20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 0.7 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築	
建物構造	木造・平屋 造り			
	1 階建ての	1 階	~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,250 円		

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)今野病院、(医)静光園第二病院、おおの歯科医院、
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは大牟田市の南部に位置し、大通りから一步入り込んだ、平屋の2棟2ユニットで静かな自然環境に恵まれている。グループホーム青葉は「地域との触れ合いを大切にしながら、その人らしくゆったり楽しく」という理念を掲げ、サービスの向上に向け謙虚に努力している。また、母体病院が隣にあり、医療との密接な連携により本人・家族に大きな安心感を提供している。関連施設は、母体病院の他に高齢者マンション・通所リハビリテーション・訪問介護・居宅介護支援・小規模多機能居宅介護があり、それらと連携しながら総合的な支援が展開され、多種の施設の特性を生かし交流も深められている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回調査での改善課題は9件であった。管理者と職員の頑張りで7件は改善され、残りの2件「職員を育てる取り組み」「重度化や終末期に向けた方針の共有」は今後の取り組みに期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めに管理者で自己評価の骨組みを考え、その後職員全体で検討会を行い作成されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回きちんと開催されており、公民館長・家族・民生委員・地域包括支援センター等の出席もあり、記録はきちんと残されている。内容は、ホームの運営状況・行事・サービスの内容・外部評価の報告が議題として討議され、そのアドバイスを基に改善に役立っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>面会時に家族の意見・苦情・不安を聞くことに努め、玄関に意見箱の設置やホーム独自の家族アンケート調査を実施し、意見の把握に努めている。その一つひとつの意見に真摯に取り組む職員の姿勢を感じる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所に「だご汁会」のお誘いのチラシを配布し、地域の人達の参加があったり、大牟田市の夏祭り「大蛇山」にホームの玄関先まで来てもらい入居者も祭りに参加したりしている。また、神社の祭りにも参加するようになってきている。ホームの看板には「介護の相談受けます」と書かれており地域との繋がりが明示されている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との触れ合いを大切にしながらその人らしくゆったり楽しく」の理念を掲げ、地域との関係作りが出来るように運営推進会議のアドバイスも受け、職員も頑張り、取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホールと事務室に入居者が手書きされた理念が掲示されている。朝のミーティング時に唱和され、理念に基づいたサービスを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所に「だご汁会」のお誘いのチラシを配布し、地域の人達の参加があったり、大牟田市の夏祭り「大蛇山」にホームの玄関先まで来てもらい入居者も祭りに参加したりしている。また、神社の祭りにも参加している。敬老会・クリスマス会は隣にある高齢者マンション住民・小規模多機能利用者と合同で行ない、又、開設者法人のデイケアの催しにも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果を基にミーティング時に話し合いを行ない、真摯な取り組みで改善につながっている。自己評価は管理者と全職員により作成されているが、今後は更に職員の自主性による自己評価も期待したい。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営状況・行事・サービスの内容・自己評価・外部評価が報告・検討され、意見やアドバイスを受けている。地域との連携の課題では、公民館長や民生委員の意見で連携交流も出来るようになってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のあんしん介護相談員のアドバイスを受け、意見交換会に参加している。また、今年は市による実地調査があり、記録の仕方等指導を受けながら相談も行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	職員には月1回の勉強会、家族には家族会を通して、成年後見人制度・地域権利擁護事業の情報を提供し理解を深めている。必要と思われるケースに対し、関係機関へ橋渡しを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に暮らしぶりや健康状態を報告している。面会が少ない家族へは、変化がある時には電話連絡をしており、「青葉だより」は定期的に家族に配られている。金銭管理は出納簿に記入され領収書が綴じられていて家族のサインが記されている。職員の異動については、家族の面会時や家族会の時に報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会議の時には意見・不満・苦情をよく聞くように心掛けている。また、意見箱の設置やホーム独自の家族アンケートをとり意見の把握に努めている。家族の厳しい意見・要望へも答えられるように努力している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なくなり、メンバーが安定してきている。今ではケアの質の向上を図りながら、入居者との馴染みの関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたって、年齢や性別の制限はされていない。また、研修会時には職員の日頃思っていることや意見を出し合うようにしている。職員の特技も業務に生かすように配慮や工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム独自の倫理規定・人権擁護規定が作成され、年に1回は開設者法人で人権教育啓発活動研修会が行われている。ホーム独自でも勉強会が行われ記録も残されている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設者法人の研修会やホーム内での月1回の勉強会(業務検討会)を全員出席で行っている。又、施設外研修も受講し、出席した職員は伝達講習を行い、その記録が残っている。		各職員の立場や経験・理解・習熟度に応じて段階的に力をつけていけるようなホームとしての計画が望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あんしん介護相談員意見交換会や認知症ケア研究会へ参加したり、利用者と共に市内の他グループホームの作品展に見学に出かけたりして交流を深め、サービスの向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者・家族にホームを見学してもらい、職員も自宅や入院先等へ訪問し、本人と馴染みの関係が出来、納得して入居できるように努力している。また入居後本人がホームに慣れるまでは、家族の訪問を頻回にさせていただくように働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で長年培った知識や知恵を利用者から教わりながら、不安や喜びを共有できる関係になれるようにと努力している。		生活の中の楽しみで関心の大きい食事にもっと重点をおき、3食を考え工夫することが望まれる。入居者と一緒に献立を考え、準備そして調理・後片付け等を行うことにより、一人ひとりに合った役割をつくり、入居者と職員との喜びを今までより多く共有できることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でのちょっとした会話や行動・態度から利用者の思いを受け止め把握し、職員全員で共有している。また利用者との話し合いを行ない希望や意向の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成担当者が中心となり、受け持ち職員の意見や他職員の意見をまとめ、一人ひとりの課題やケアを反映できる介護計画が作成されている。		介護計画については、介護の基本となることを職員がしっかり認識し、家族とも丁寧に話し合うことで、思わぬ意見や提案をひきだせるよう期待したい。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画が見直されている。状態変化時には、職員・家族の意見や要望に基づきその都度介護計画を変更している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制がとられており、安心した生活ができるように支援されている。本人の「自宅に帰ってみたい」という要望にも職員が同伴し連れて行ったりしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医へ受診できるように支援されている。母体病院からもホーム内での往診診療を受けており、母体病院に無い診療料については家族とも協力し職員も同伴受診を行ない支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化・終末期のあり方やホームで看取りを行なうかどうか本人・家族と話し合い確認を行なっている。またターミナル期の早い段階で再度確認しているが、今までに終末期までの利用者はいない。		ホームと隣接して母体病院がある利点を生かし、今後重度化や終末期の入居者をホームで支援するために、チームの連携、職員の力量、諸条件の整備等の準備について検討していくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	母体病院・関連施設と一緒に接遇教育・倫理教育を行い、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応が出来るように意識向上に努めている。記録書類などは事務室にきちんと管理されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはおおよそ決まってはいるが、入居者の体調に配慮しながら、又、その日その時の本人の希望に沿って個人個人のペースで生活できるように個別性のある支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と畑で収穫した野菜を使って一品作ったり、昼食は希望を献立に入れたりして入居者の能力に応じて調理支援している。職員の1人は検食で入居者と同じものを食べているが、他の職員は思い思いの昼食を摂っている状況である。		食事は入居者にとって力の発揮や参加、他の入居者や職員との関係作りなどの点から、生活全体の中でも重要な位置にある。朝食・夕食においても各ユニットで作ることが出来るように検討され、また職員全員が入居者と同じ食事を一緒に楽しく食べる見直しも期待したい。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴がゆっくり出来るように支援しているが、職員数の関係もあり週3回、日勤帯での入浴となっている。入居者には入浴を嫌がる人も多い状況である。1ユニットの浴室の浴槽は、深く広く浴槽横に手すりがないため、入居者・介助者共に不安と負担が多いようである。		元気の基にもなる入浴について、希望に応じた支援ができないか再度全職員で検討すること、又、1ユニットの浴室浴槽については工夫を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴・趣味などを把握し、折り紙が好きな人・畑仕事や草取りが好きな人・絵描きが好きな人等の出番や役割作りを支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて折り紙を買いに職員と出かけたり、近くの花屋さんや近所を散歩、美容室や理容室に出かけたりしている。又、2ヶ月に1回は利用者を外へ連れ出す行事を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠が身体拘束であることの認識があり、玄関は日中施錠しておらずセンサーを取り付けたりして工夫している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣の母体病院と合同の火災訓練が年2回行われている。消防署の協力を得て、ホーム独自の夜間を想定した避難訓練を利用者・民生委員も交えて実施している。運営推進会議でも災害対策について話し合い、協力を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・夕食は母体病院栄養士の献立で糖尿病食等も提供されている。昼食は、利用者の希望などでメニューが作られている。摂取量は毎日チェックされている。水分量は特に指示のある利用者についてチェックされ、水分が不足がちになる人へ配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの椅子にかけて、窓から外の木々や畑・草花・犬が見えるように配置されている。季節の花を飾ったり、折り紙の得意な方の作品があったりと季節感も大事に共用空間が作られている。		リビング兼食堂の椅子はしっかりしていて背もたれもあり座り心地がよいが、前後に椅子を動かす時に「ギーギー」と高い不快な音が出ている。椅子の足にクッションを付ける等工夫を期待する。お客様を迎え入れる玄関は、広さを生かした工夫がされることを期待する。
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染み深い整理ダンスや仏壇、写真などを部屋に持ち込み、思い思いの部屋となっている。ベッド横のポータブルトイレの設置については、本人と話し合ってみるのも方法かと思われる。		